



WEEKLY REPORT

高山中央ロータリークラブ

2025～2026 年度 高山中央 RC 会長テーマ

親睦・学び・成長・奉仕 ～地区と地域の未来を考えて～

よいことの
ために
手を取りあおう

Rotary

◆会長 都竹 太志 ◆幹事 井ノ下 雄志 ◆会報委員長 今井 哲也 ◆会報担当 西田 智

創立 1991 年 5 月 20 日

<出席報告>

◇事務局 高山市本町1-2

飛騨信用組合本町サテライト出張所 3階

TEL:0577-36-0730/FAX:0577-36-1488

◇例会場 ひだホテルプラザ 3F/TEL:0577-33-4600

◇例会日 毎週月曜日 PM12:30～

◇ホームページ <http://www.takayamacrc.jp/>

	会員数	出席会員	出席数	Make-up	出席率
本日 1408 回	56 名	56 名	45 名	——	80.36%
前々回 1406 回	56 名	56 名	42 名	2 名	78.57%

●点 鐘

●ロータリーソング

●四つのテスト

●ビジター・ゲストの紹介

2025 年度ロータリー米山記念奨学生

林 衣瀾 様

●会長の時間

会長 都竹 太志

「継続」こそ価値——企業経営とロータリーに共通するもの



皆さん、こんにちは。やっとなで秋も深まってきましたが、皆さんはどんな秋をお楽しみですか？さて、10 月はロータリーにおいては実に多くの意義深いテーマが重なる月になっております。「経済と地域社会の発展月間」「ロータリー学友参加月間」、そして日本独自の「米山月間」という三つのテーマが掲げられています。

さて皆さん、唐突ですが、企業において最も重要な目的は何かと問われたら何と答えますか？多くの経営者は「利益を出すこと」と答えるかもしれませんが、しかし、利益はあくまで手段であり、最終的な目的ではありません。企業の**第一の目的**とは、「事業を**継続**すること」に他なりません。どれほど画期的な商品や優れた技術を持っていたとしても、それを長く社会に提供し続けることができれば、真の意味で社会貢献を果たすことはできません。その「継続」を実現するために、企業はさまざまな選択肢を持っています。たとえば**親族による事業承継**。創業者の意思や企業文化を最も直接的に継ぐ手段です。また、**株式上場**によって資本を公開し、経営の透明性を高めながら組織としての継続性を図る方法もあります。そして近年増えているのが、M&A です。外部の力を借りながら、事業の価値と理念を次のステージに引き継いでいく手段です。い

ずれの方法も根底にあるのは、「どうすればこの事業を次の世代に受け継いでいけるか」という問いです。

このように企業が「継続」を第一の使命とするように、ロータリーの活動もまた、**継続を本質**とするものであると、私は感じています。最初、月間が3つもあるのか、沢山あるな、と感じましたが、今回の原稿を考え始めましたら、それぞれの月間は独立しているようにも見えますが、実は深くつながっており、そしてそれぞれが「人を育て、社会を育て、未来を育てる」ための一連の流れの中にあると、私は感じました。

ロータリーの奉仕活動は、一時的な支援や単発のプロジェクトでは終わりません。むしろ重要なのは、その活動が**いかに持続可能であるか**、そして**どのように次の世代に価値や理念を引き継いでいけるか**という視点です。たとえば、今月のテーマである「経済と地域社会の発展月間」では、地域に「稼ぐ力」を根付かせ、持続可能な社会を育てることが目的とされています。ただ物資を与えるのではなく、人々に力を与え、長く自立できる仕組みを作る。この考え方は、企業経営にも通じるものがあります。

そして、その「力」を持った人材を育てていくためにあるのが、「ロータリー学友参加月間」や「米山月間」です。過去に奨学金やプログラムを通じて支援を受けた学友たちが、やがて社会に出て、今度は支える側にまわる。この循環こそが、ロータリーにおける「継続の精神」そのものです。

これは、企業における**後継者育成**に非常に似ています。どれほど素晴らしい経営理念や技術があっても、それを受け継ぎ、実行できる「人」がいなければ、継続は成り立ちません。ロータリーもまた、奉仕の精神を次世代に伝えるために、**仲間づくり（会員増強）や人材育成**を大切にしています。ここ

にも、企業とロータリーの明確な共通点が見えてきます。

加えて、ロータリーの月間テーマを 1 年通して見ていくと、それ自体が一つの物語になっていることに気づきます。7 月の「母子の健康月間」では命の基盤を支え、8 月の「会員増強月間」では仲間を増やし、9 月の「教育月間」では学びによって未来を拓き、10 月ではそれらの学びを社会に還元していく——これはまさに、**命から始まり、教育を経て、自立・社会貢献・継承へと続く、一人の人生のストーリー**そのものです。

企業が利益を出しながら社会に価値を提供し続けるように、ロータリーは奉仕を通じて社会に価値を残し続けていく。そこにあるのは「短期的な成果」ではなく、「長期的な継続とつながりへの信頼」です。

そして今、私たちが行っている一つひとつの奉仕活動は、10 年後、20 年後に社会を支えるリーダーや奉仕者を育てているかもしれません。それを想像するだけで、日々の活動がどれだけ意義深いものかが実感できます。

ロータリーの奉仕とは、未来への投資であり、人への信頼の証です。企業における継承が理念や文化を未来へとつなぐように、私たちロータリアンもまた、**奉仕の精神を未来へと継承していく責任**があります。

今月はぜひ、この「継続」の視点から、私たちの活動を見つめ直してみしましょう。継続こそが価値を生み、その価値がやがて世界を変える力になると、私は信じています。

今回もご清聴ありがとうございました。

●幹事報告 幹事 井ノ下 雄志

◎R I 本部より
・ザ・ロータリアン誌

◎国際ロータリー第 2630 地区ガバナー事務所より
・次期米山奨学生世話クラブ受入説明会について
日時：11 月 23 日（日）
会場：安保ホール

○ロータリー文庫運営委員会より
・文庫通信第 394 号発行のご案内

<高山市青少年育成市民会議より>
・令和 7 年度岐阜県青少年健全育成県民大会開催について
日時：11 月 16 日（日）13：00～15：00
会場：関ヶ原ふれあいセンター



<飛騨慈光会後援会より>

・感謝状（創立 20 周年記念大会において）

<会報>

・下呂 R C

●3 分間スピーチ 上嶋 貞之



●米山記念奨学委員会

委員長 田中 由泰

敬愛する高山中央ロータリークラブの皆様こんにちは。今年度米山記念奨学委員会の委員長をさせていただいております田中由泰と申します。ロータリー米山記念奨学会とは勉学、研究を志して日本に在留している外国人留学生に対し、日本全国のロータリアン（ロータリークラブ会員）の寄付金を財源として、奨学金を支給し支援する民間の奨学団体です。



その目的は、将来母国と日本との懸け橋となって国際社会で活躍する優秀な留学生を奨学することを目的としています。

米山記念奨学生となるには、各教育機関からの推薦などを受け、地区の米山記念奨学委員会による面接などの選抜を受ける必要があります。今回卓話をお願いしたリンイランさんはまさにその厳しい選抜を見事合格されたきわめて優秀な人物です。

リンイランさんは中国の吉林省からお見えになりました。

現在岐阜大学大学院自然科学技術研究科 生物生産環境科学専攻修士 2 年として活躍されております。

リンさんの研究テーマや米山記念奨学生としてのロータリーとのかかわりなどを卓話としてお話いただきます。

皆様ご清聴お願いします。

それでは、リンさんよろしくをお願いします。

ロータリー米山記念奨学生 林 衣瀾 (リン・イラン) 様

まず初めに自己紹介をさせていただき、私の出身地である中国東北部について簡単にご紹介いたします。次に、中国で学んだ大学時代について触れ、所属していた学校やその際に取り組んだ研究内容をご説明いたします。



続いて、現在在籍している岐阜大学大学院 自然科学技術研究科 生物生産環境科学専攻 修士 2 年としての研究についてお話しいたします。所属研究室の概要と、私自身が取り組んでいる研究テーマを紹介いたします。

最後に、米山記念奨学事業に採用されて以来、参加させていただいた様々な活動や、それらを通じて得られた学び・ご支援について述べ、今後の抱負や将来の展望についてお伝えしたいと思います。

みなさん、こんにちは。

林衣瀾 (リン イラン) と申します。現在、岐阜大学大学院 自然科学技術研究科 生物生産環境科学専攻の修士 2 年生です。

私は双子座で、性格は明るく、物事に対して常に好奇心と探究心を持っています。さらに、ミニマリストでもあり、スーツケースひとつとリュックひとつがあれば十分に生活できます。

3 年前に日本に来てから、人生で初めての趣味に出会いました。それが登山です。岐阜は「山しかなく海がない」と言われる地域ですが、その分、山登りを楽しむ機会に恵まれました。これまでに登った中で一番高い山は乗鞍岳、一番長い道のりは伊吹山、一番回数が多いのは金華山、そして一番小さいのはその近くの鷹巣山です。

趣味の二つ目と三つ目はドライブと旅行です。日本の自然風景が大好きなので、出かけるときはいつも車で行くことが多いです。最近では、東京での面接に行った際、行きは富士山の五合目に立ち寄り、帰りは熱海を通して帰りました。深夜 3 時によりやく家に着きましたが、翌朝目覚めると合格のメールが届いていて、とても嬉しかったです。

最後に、血液型は不明ですが、特に蚊に刺されやすいので、おそらく O 型ではないかと推測しています。

では、自己紹介のあとに、私の故郷について少し紹介させていただきます。

私は中国の東北部、遼寧省 (りょうねいしょう) の瀋陽市 (しんようし) 出身です。

みなさんは「ハルビン」や「大連 (だいにん)」という名前を聞いたことがあるかもしれませんが、瀋陽もその近くにあります。

まず、中国と日本の行政区分の違いを簡単に紹介します。

中国は「省 (しょう)・市 (し)・県 (けん)」の三段階で構成されていますが、日本は「県 (けん)・市 (し)・町 (まち)」という形ですね。

瀋陽市の面積は岐阜県より少し広く、人口はおおよそ 5 倍になります。

とても大きな都市です。

そして、瀋陽の冬はとても寒いです。

外の気温はマイナス 30 度くらいになりますが、家の中はプラス 30 度くらいでとても暖かいです。

これは「集中暖房 (しゅうちゅうだんぼう)」という仕組みのおかげです。

家の床の下にはパイプが通っていて、そこにお湯が流れています。

そのお湯は石炭を燃やして作られた熱で温められ、パイプを通して各家庭に送られるんです。

ですから、外がどんなに寒くても、家の中では半袖で過ごせるほど暖かいです。

また、東北地方は「秋がない」とよく言われます。

夏が終わるとすぐに寒く延辺大学は広大なキャンパスを持ち、その敷地面積は約 230 万平方メートルに及びます。学生数は 2 万 5 千人、教職員は 2 千人を超え、教育や研究活動が非常に活発に行われています。キャンパス内には 30 棟以上の教学楼と 20 棟以上の宿舍楼があり、まさに「一つの町」のような規模を誇っています。ここで少し説明したいと思います。中国の大学では、基本的に学生は全員が寮に入ります。部屋は 8 人部屋と 4 人部屋があり、各階にはトイレと洗濯室があります。火災を防ぐために寮にはキッチンが設置されていませんが、その代わりに学校には 4 つの大きな食堂があり、価格もとても安いです。宿舍費は、8 人部屋で年間 8,000 円、4 人部屋で年間 25,000 円となっています。大学は山の上に建てられており、四季折々の自然が美しく、特に秋には紅葉がキャンパス全体を彩ります。建物のデザインには朝鮮族の伝統的な様式が取り入れられており、非常に特徴的です。さらに、大学の正門の向かいには朝鮮族料理の店が立ち並び、学生や観光客にとっても人気があります。

ここからは、私の大学時代の研究についてご紹介します。私は大学で景観設計を専攻していましたが、研究テーマは主に園芸学の分野に関連していました。対象とした果実は「サルナシ」で、英語では「Hardy Kiwi」または「Baby Kiwi」とも呼ばれます。サルナシはキウイフルーツの仲間で、見た目は小さくて丸く、皮がとても薄いので皮ごと食べられるのが特徴です。甘味が強く栄養価も高く、特にビタミン C が豊富に含まれています。寒冷地でも育てやすく、私の地元である中国の東北地方でも広く栽培されています。

研究では、植物ホルモンを処理することで果実の膨大や成熟、さらに軟化の過程にどのような影響があるかを調べました。具体的には、成長促進や果実肥大に関わるホルモン、そして軟化に関わるホルモンを組み合わせ処理し、その変化を観察しました。

その結果、処理の種類や濃度によって果実のサイズや柔らかさに明らかな違いが見られ、サルナシ果実の品質向上や収穫後の利用に応用できる可能性が示されました。

この研究を通じて、私は植物ホルモンが果実の成長や品質に与える大きな役割を学び、植物生理学への関心を深めました。現在の大学院での研究にも、この経験が大きく活かされています。

併せて、学部時代の専攻である景観設計についても触れておきます。景観設計とは、公園や庭を作るだけでなく、都市や自然の環境をいかに美しく、そして人々にとって快適な空間にするかを総合的に考える学問です。建築・植物・生態・デザインの要素を組み合わせ、計画から設計まで行うのが特徴です。

では、私がどのようにして植物研究へと方向転換したのかをお話しします。大学時代の専攻は風景園林の計画デザインで、名前のおりデザインだけではなく手描きの製図も必要でした。そのため「人物色彩」という授業までありました。もちろん、ソフトで図面を描く基礎知識は持っていたのですが、それでも手描きが必須で……。

大学の研究室活動の一環として、毎年行われる学園祭での花の販売イベントに取り組みました。

この活動では、花に関する知識を生かしながら、マーケティングや接客などの実務経験を積むことを目的としています。

まず、市場調査を行い、どの花が一番人気があるか、どの時期にどんな需要があるかを分析しました。その結果をもとに、販売する品種を選び、生産者との連絡調整や、会場でのディスプレイの工夫、そして当日の販売まで、すべて学生主体で進めました。その結果、3日間で約120万円の売上を達成し、過去最高益を記録しました。これは、チーム全員が協力し、課題を一つずつ乗り越えていった成果だと思います。

この経験を通じて、チームワークの大切さや、主体的に行動する力を身につけることができました。また、お客様や生産者とのやりとりを通して、人との関係づくりやコミュニケーションの大切さも実感しました。

私の研究室では、この花の販売イベント以外にもさまざまな活動があり、教員を含め、みんなが明るく前向きに参加しています。研究だけでなく、こうした実践的な活動を通して学びを深められることが、研究室の魅力の一つだと思います。

こちらの写真は、今年の3月に研究室のみんなで行った富山への卒業旅行の様子です。

留学生、先生、そして卒業生を含めて、研究室の全員が参加しました。

写真の場所は富山県の「雨晴海岸（あまはらしかいがん）」というところで、海の向こうには立山連峰の雪景色が見える、とても美しい場所です。

みんなで海辺を散歩したり、地元の料理を食べたりして、思い出に残る楽しい時間を過ごしました。普段は研究で忙しい毎日ですが、この旅行を通して、先生や先輩、後輩との絆をより深めることができ、とても良い思い出になりました。

現在、私は大学院で園芸学に関連する研究を行っています。

研究対象は「バラの切り花」です。バラは世界中で人気のある観賞用植物で、プレゼントや結婚式など、さまざまな場面で使用されます。色や形、香りなど多様な品種があり、園芸市場において非常に重要な存在です。

しかし、バラの切り花には大きな課題があります。それは、花の寿命が短く、観賞期間が限られていることです。特に輸送中や店頭で並んでいる間に萎れてしまうことも多く、流通面でもロスが発生しやすいのが現状です。

そこで私は、外生的な植物ホルモン（フィトホルモン）処理を用いて、バラ切り花の開花や観賞期間を延長することを目的に研究を行っています。昨年度の実験では、青いバラを材料に使いました。このバラは遺伝子組換えによって香りを持つように改良された貴重な品種で、観賞価値が非常に高いです。しかし、花期が非常に短いという弱点がありました。

使用できる本数が限られていたため、後半の実験ではより一般的な品種である「サムライ 08」という赤いバラを使用しました。この品種は市場でもよく流通しており、比較的安定して入手できます。現在も実験は継続中で、今後は花卉のサンプルを採取し、糖含量の分析を行う予定です。糖は花の老化や萎れに関わる重要な要素であり、その変化を調べることで、より効果的なホルモン処理方法を見つけたいと考えています。最終的には、切り花の品質を高め、より長く美しさを楽しめるバラの流通を支えることが、この研究の目標です。

私は2025年4月から岐阜エトスロータリークラブに参加し、この半年間で多くの活動を経験しました。最初は緊張しましたが、皆さまに温かく迎えていただき、安心して参加できました。

入会直後には歓迎会を開いていただき、美しい庭を眺めながら食事を楽しむ日本の文化に触れました。カウンセラーの方から「景色を楽しみながら食事をするのも礼儀の一つ」と教えていただき、乾杯の仕方や席での振る舞いなど、大学では学べない

ことを経験しました。
これからもエトスクラブでの経験を通して学んだ
ことを、将来の生活や仕事に活かしていきたいと
思います。
人とのつながりを大切にしながら、どんな環境で
も柔軟に対応できる自分になりたいです。

＜10 月のお祝い＞

＜会員誕生日＞

中田 専太郎	S 3 0 年 1 0 月 6 日
伊藤 正隆	S 2 7 年 1 0 月 1 1 日
住 裕治	S 4 4 年 1 0 月 1 1 日
二木 公太郎	S 5 0 年 1 0 月 1 2 日
益田 大輔	S 4 9 年 1 0 月 2 1 日
井ノ下 雄志	S 4 8 年 1 0 月 2 4 日

＜夫人誕生日＞

和田 良博	景子	1 0 月 1 1 日
角竹 正至	祥江	1 0 月 1 2 日
田中 雅昭	栄子	1 0 月 1 3 日

＜結婚記念日＞

内田 茂	S 5 8 年 1 0 月 1 日
中屋 出	H 1 8 年 1 0 月 1 日
熊崎 元康	H 5 年 1 0 月 2 4 日
鷺塚 英雄	S 5 7 年 1 0 月 2 8 日
平林 英一	S 5 2 年 1 0 月 3 0 日
久々野 国良	S 5 1 年 1 0 月 3 1 日

＜ニコニコ BOX＞

米山記念奨学生の林 依瀾さんようこそ高山中
央ロータリークラブへ。本日は卓話をよろしく
お願い致します。 田中 由泰

先週の担当例会を委員長の身でありながら欠席
して申し訳ございませんでした。水口副委員長
ありがとうございました。そして、高山 6 クラ

ブ対抗ゴルフコンペお疲れ様でした。来週 13 日
はガバナー杯チャリティーゴルフ濃飛グループ
予選会です。引き続きよろしくお願いいたします
今井 哲也

今朝、こうへいうどんへ行ったら島 良明さん
にお会いしました。今日は何かいい事がある
と思います。 村井 繁喜

先週放送された「秘密のケンミンショー」で高山
のあげづけが紹介されました。少しでも映像に
映っていましたがさすが全国ネット、多くの方
から声を掛けられTVの力を改めて実感しまし
た。 下田 徳彦

本日は一粒万倍日です。以前買った財布を下ろ
そうかな。 都竹 太志



「でまえ講座」

高山市立日枝中学校 2 年生 12 : 55～15 : 05
会員参加者 12 名
会員企業参加者 6 名
オブザーバー参加者 3 名

